

母塾

VOI-28

2019・11・5

新小岩幼稚園・未就園児クラス



illustrated by kurumi

『面白い か 必要 か』

アドバイザー 猪之鼻晴子

江戸川区私立幼稚園PTA連合会主催の講演会に参加させていただいた。講師は「整理・収納アドバイザー」の小島 弘章(コジマジック)氏。多くのテレビ番組でもお馴染みのコジマジック氏のセミナーは年200回ほど開催されるという。芸人さんである話術もさることながら、収納・整理に関する知識と体験が盛りだくさんで90分が瞬く間に過ぎてしまった。「片づける」という意識の前提から日々の暮らしに活かせる収納のヒントまで「目から鱗」の数々を教えてもらった時間となった。「人間がひとり暮らすということは約1,500のアイテムを所有している」そうだ。4人家族なら家の中に単純計算で6,000の物があることになる。コジマジック氏は上手にそれらを分類し、収納するテクニックを伝えている。「片づける」ということは学校では習っていない。彼は「収育」ということを学校を回って広めている。確かに「片づけ」は人が一生し続けなければならないことなのだ。

我が家なら8人分の持ち物が家の中にある。共有するものもあるが、日々無意識に過ぎてしまえば物が増え、暮らしに支障をきたす。今は家でクリックひとつ、スマホでも買い物ができるので、簡単に物が増えてしまう。高校生以上のお兄ちゃんお姉ちゃんの安い洋服が毎日のように届いている。そこは、我が家の整理整頓の司令塔の長女が目光らせている。「1個増やしたなら 2個捨てて」と指示が出る。家が物で溢れかえらないのは彼女の功績だ。私は年中のロクについつい小さなオモチャを買ってしまい、長女のため息となっている。

ひとが自分から行動を起こすのは「面白いから」か「必要なことと感じている」からだと思う。幼稚園児は生活全体が遊びの延長だ。ロクはブロックと怪獣と洗濯ばさみで遊んでいる。「ママ、牛乳パックない？」とさらに加えている。それを急に「片づけなさい」と言っても遊びを止めて、物を分類するのは彼にとって「イヤなこと」ではない。次男に「片づけないと、全部捨てちゃうよ。」と言われると、泣きながら歯向かっている。子どもは物を使って「創造」をしているので、それを中断させられ、「整理」するという真逆のことをさせられるのがイヤなのだ。子どもにとって片づけは「面白くも、必要とも」感じられないのだ。片づけることがおとなにとって「必要」なことならば、子どもにも「面白い」と思うように工夫するか、「必要なことなのだ」と感じられるようにするしかない。コジマジック氏のご自分のお子さんたちが楽しんで片づけられるような工夫をたくさんされている。片づけがまさに遊びの延長になっているようだ。たくさんのヒントがあった。コジマジック氏にとって「片づけ」は必要でかつ、ご自身が面白くてしかたのないことなのだろう。「片づけないと、捨てちゃうよ」ではなく、いかに「面白く」自分にとって「必要」と認識させるか？が家庭の中で自分と家族が快適に暮らすために「必要」な意識なのだと気づく。

次女に「今日ね、コジマジックさんの講演があつてね。」と報告した。「私、片づけ苦手なんだよね。でもスー(長女)が全部やってくれるからいいの。」と言う。次女は片づけを「必要なこと」と感じていないらしい。我が家は他の家族にも片づけを「必要」と感じさせる必要があるらしい。

harukoinohana1717@gmail.com